

大学英語教育学会（JACET）中部支部 2016年度秋季定例研究会プログラム

日時：2016年10月22日(土) 14時00分～17時55分

会場：中部大学名古屋キャンパス 6階 610室

名古屋市中区千代田 5-14-22 (JR 中央本線「鶴舞」駅名大病院口(北口)下車すぐ)

開会挨拶 14時00分～14時05分 支部長 大森裕實(愛知県立大学)

研究会研究発表1 授業学研究会(中部)

14時05分～14時55分

「CIS Special Lecture B: One Step Forward

—From Active Learning to Deep Active Learning—

木村友保(名古屋外国語大学)

佐藤雄大(名古屋外国語大学)

研究会研究発表2 多文化共生と英語教育研究会

15時00分～15時50分

「多文化共生時代の英語教育の課題とは何か

—等身大の大学生の意識と志向性をめぐって—

小宮富子(岡崎女子大学)

岡戸浩子(名城大学)

榎木蘭鉄也(中京大学)

休憩 15時50分～16時10分

講演会 16時10分～17時50分 司会 小宮富子(岡崎女子大学)

「ELF(English as a lingua franca)研究の発展と大学英語教育への示唆」

村田久美子(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

閉会挨拶 17時50分～17時55分 副支部長 鈴木達也(南山大学)

懇親会 18時30分～

発表概要

研究会研究発表1(授業学研究会(中部))

14時05分～14時55分

CIS Special Lecture B: One Step Forward—From Active Learning to Deep Active Learning—

木村友保(名古屋外国語大学)

佐藤雄大(名古屋外国語大学)

現在2年半継続して行っているオムニバス形式の授業「現代国際学特殊講義 B/the Contemporary International Studies (CIS) Special Lecture」では毎週異なった国の大使館から大使館関係者に来学してもらい各国の概要を英語で学生に講義してもらっている。その英語による講義の後必ず講師と学生の間で英語による質疑応答をする時間を設けているが、講義を開始した当初は特定の学生からしか質問が出ず、授業として満足な状態ではなかった。この2年半そうした状況を改善すべく私たちは学生に対して多様な働きかけをして徐々に様々な学生が質問をするようになり、今では講演の先生からも学生からの積極的な質問に驚かれることがあるぐらいになってきた。本発表では私たちがこの2年半にわたってどのように学生の様子を観察・研究し、介入・実践してきたかを発表したい。特に学生が主体的に講義に参加するための働きかけをActive Learning、さらにDeep Active Learningという視点からも紹介したい。

研究会研究発表2(多文化共生と英語教育研究)

15時00分～15時50分

多文化共生時代の英語教育の課題とは何か

—等身大の大学生の意識と志向性をめぐって—

小宮富子(岡崎女子大学)

岡戸浩子(名城大学)

榎木蘭鉄也(中京大学)

近年、日本の地域社会では在留外国人数が増加傾向にあり、「多文化共生」は重要な課題となっている。このような多文化・多言語化が進む多文化共生時代の英語教育に対する意識を明らかにするために、5つの大学の大学生を調査対象者として、「多文化共生と英語」に関する調査を実施し回答を得た。本発表では、基礎統計量を中心として「多文化共生」「国際英語」「英語教育」の視点から分析した調査結果を報告するとともに、多文化共生時代の英語教育の課題を取り上げる。

ELF (English as a lingua franca) 研究の発展と大学英語教育への示唆

村田久美子(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

本講演では、まず ELF の定義を WE (World Englishes) との比較で論じた後に、過去 15 年ほどで目覚ましく発展を遂げた ELF 研究を概観する。次に日本の ELF 研究の現状を、大学での「英語を媒介とする授業」(EMI - English-medium Instruction) に焦点をあて論じる。特に学生が将来グローバル人材として国際的に活躍する為にはどのような「英語コミュニケーション能力」が必要であるかを、EMI の 'E' (英語) に注目し、どのような「英語」による教育、及び、コミュニケーションが行われているかの実態調査結果に基づき論じ、グローバルな場面で英語を共通語として自在に操る力をつける為には、大学英語教育でも伝統的な「英語母語話者の英語」から「共通語として使用される英語 (ELF)」へのパラダイム転換が喫緊の課題であることを論じる。

最後に新しく発足した JACET ELF SIG の活動についても簡単に説明をさせて頂く予定である。

講演会講師紹介

村田久美子氏

早稲田大学教育・総合科学学術院教授。津田塾大学英語英文学科卒業、MA、PhD とともにロンドン大学教育研究大学院(Institute of Education, University of London)。富山県立大学助教授を経て、1995 年より早稲田大学勤務。4 月設立の ELF SIG 代表。現在の研究テーマは「産学 ELF(共通語としての英語)使用実態調査とグローバル人材育成教育への提言」(科研費 基盤(B)H26-H30 プロジェクト)。

【専門】

応用言語学、会話・談話分析、語用論、共通語としての英語、英語教育、異文化コミュニケーション

【主要著作】

Murata, Kumiko (ed.) (2015). *Exploring ELF in Japanese Academic and Business Contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications*. London: Routledge.

Murata, Kumiko and Jennifer Jenkins (eds.) (2009). *Global Englishes in Asian Contexts Current and Future Debates*. London: Palgrave Macmillan.

村田久美子・原田哲男編著(2008).『コミュニケーション能力育成再考—その理論と実践』ひつじ書房。
Murata, Kumiko (1994). *A Cross-Cultural Approach to the Analysis of Conversation and its Implications for Language Pedagogy*. Tokyo: Liber Press.

懇親会のご案内

「すし藤」にて、定例研究会懇親会を行います。会費は 4,000 円前後を予定しております。準備の都合上、参加ご希望の方は 10 月 19 日(水曜日)までに、JACET 中部ホームページよりお申し込みください。

情報交換・意見交換の場として、多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、当日のキャンセルはご容赦ください。

事務局からのお知らせ

- ☆ 駐車場はございませんので公共交通機関をご利用下さい。
- ☆ 当日、第5回中部支部役員会(12:30～13:30)を行います。役員は同会場 6階 609室にご参集下さい。

会場アクセス

JR 中央本線「鶴舞」駅名大病院口(北口)下車徒歩すぐ



定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

JACET 中部支部事務局:名古屋外国語大学 佐藤雄大研究室内

t-sato@nufs.ac.jp